

Sky Seminar



デイズニーランド化する社会

現代社会の様々な産業で、デイズニーランド化が進行しているという議論がある。アメリカの社会学者、アラン・ブライマンの著書『デイズT化する社会』は、その代表的な本だ。デイズT化というと、子ども向けの幼稚な商品が増えたのかと思われそうだが、そうではない。「西部開拓時代風」などのテーマを盛り込んだレストラン、イメージキャラクターのマーチャンダイジング、従業員がまるで遊びのように楽しく働く職場、そしてそれらを可能にする徹底した管理。こうした要素は、デイズTにおいて洗練され、

その他の産業に広がっているというものが、著者の主張だ。ただ、彼自身が述べているように、こうした手法は、現在ではピークを過ぎてしまったという。いまでも「昭和30年代風」などのテーマ化された施設は目に付くが、その一方でハブルの頃の開発を背景にしたテーマパークが経営危機に陥っている。リゾート開発の目玉だった複合施設の中にも、行政の支援でどうにか生き残っているものが少なくない。近年では、不況などによる収入の低下を背景に、アウトレットモールの

ような安売りを武器にした商業施設が人気だ。これだけを見るとデイズT化は過去の現象のようにも思えてくる。だが実は、アウトレットモールにもデイズT化は入り込んでいる。それらの多くが、観覧車やメリーゴーランドなどの遊興施設を併設しており、来場者は買い物だけでなく、そうした場所に憩いを求めてやってくるのだ。

マーチャンダイジングについてもいわゆる「当地もの」「ゆるキャラ」は全国で人気だし、歴史好き女子「歴女」人気を当て込んで、戦国武将のキャラクター化を行っている地域もあるという。関西学院大学をはじめとして大学業界も、受験グッズやロゴ入りTシャツなどの販売を始めている。

このように、デイズT化は現代の私たちに与えてくれる概念になっている。モノが飽和した社会では、モノへのニーズがなくなることはないものの、その商品を選ぶ基準は、「楽しさ」「やよび」「など」の価値観が中心になってくる。社会学という学問は百年以上にわたって、その時々社会に生きる人々の価値や意識を対象に研究を重ねてきたのだが、社会が大きく変わるつとにしているいま、まさにそうした価値を問う知が、誰にとっても必要とされているのである。

鈴木 謙介
関西学院大学
社会学部准教授

すずき けんすけ
1976年福岡県生まれ。専攻は理論社会学。ネット、ケータイなど、情報化社会の最新の事例研究と、政治哲学を中心とした理論的研究を架橋させながら、独自の社会学論を展開している。2006年よりTBSラジオで放送中の、文化系トークラジオ「Life」に出演。同番組は第45回キヨロシイ賞ラジオ部門において大賞を受賞。2009年からはNHK教育テレビ「青春リアル」に出演中。



西宮上ヶ原キャンパス
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1番155号
神学部 文学部 社会学部 法学部 経済学部 商学部 人間福祉学部 国際学部(2010年4月 新設)

西宮聖和キャンパス
〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山7番54号
教育学部

神戸三田キャンパス(KSC)
〒669-1337 兵庫県三田市学園2丁目1番地
総合政策学部 理工学部